



## 特集 5

# 農業から発信する地域のミライづくり

農業生産法人株式会社ファーム咲創

代表取締役

うけな  
浮穴 道男

（今治市朝倉）

### 今治の現状

JAおちいまばり管内は、瀬戸内の温暖な気候に恵まれていることもあり、中山間地から島嶼部までの様々な地理条件の中で、果樹・水稲・野菜・花卉と多岐に渡って生産できる恵まれた環境にあります。

その一方で、全国の農業を取り巻く環境と同様に、農業者の高齢化、担い手・後継者不足と価格低迷・鳥獣被害などによる生産意欲の低下及び遊休農地・耕作放棄地の増加が懸念されています。

### 地域の課題、求めるものは？

全国各地でも同じような状況に向けた対策として、JA出資型法人の設立を進める取組が有り、JAおちいまばりは地域振興を図る為、発揮すべき機能や事業を考えようと法人立ち上げも視野にいった機運が盛り上がってきました。

まずは何が地域・生産者に求められてい



社員が現場から状況報告する様子

した。中山間地域から瀬戸内の島嶼部まで、60地区以上での農業者を中心とした座談会は合併後はいじめの取り組みでした。

結果として、地域・年代での差異はあっても、担い手・後継者がおらず、今の生産者から後継者が続かない、今守れている農地の保全や集落機能の維持も難しいといった状況があり、地域に根付いた継続的な組織・人が必要であることがはっきりとしてきました。

### 設立と三本柱の取り組み

平成24年7月に意見交換や意向調査を経て、モデル地区として朝倉地区にファーム咲創を設立することとなりました。地域課題解決に向けての事業目的は大きく①人材育成②労働力支援③農業経営に決定し、現在と将来の取り組みをまとめました。

まず、1点目の人材育成については、将来に向けて地域に長期間（20～30年）の定着ができる新規就農者を育成することを目的として法人雇用によるノウハウの習得を行い、独立自営就農を目指していくこととし、地域振興の基盤となる人材創出の一助となることを目指しています。

2点目の労働力支援については、現在第一線で地域農業に携わっておられる生産者がより安定した経営や規模拡大にあたっての課題である一時的な労働力支援、作業受託を提供しています。これに





## 実地研修にあたる社員



ついでには、地域性や作業時期の課題もあるため、JAを通じて、各農業法人との協議会を設けて調整を行いながら取り組んでいます。

3点目の農業経営については、JAの別人格である株式会社として農地を借り受け、肥培管理・販売をおこなっています。農地については、JAが取り組む農地利用集積円滑化事業にて委任を受けた農地を中心に借り受けることで、集積・有効活用を図っており、年度内に30haを超す見込みとなっています。咲創の現在の主な作付品目は、米、麦、きゅうり及びさといもです。

## 新たな課題

現在と将来の課題にむけての取り組みを行いながら、課題としては、労働力確保・資金繰り・農地集積（現状は分散地

多数）、プロパー人員育成等があり、日々改善を進めています。

前身となる組織を持たない新たな法人であり、ノウハウも無いため、内部的な課題としては、プロパー人材の確保・ボトムアップが常に必要であり、外部的な課題としては、農地の委任や相談が増える中で、どのように地域ニーズに対応していくかの体制、対策の確立が検討されています。

当社で借り受けて、有効活用・保全できる面積が現在のペースで大きくなくても、今治市や朝倉地区だけで見ても決して大きな規模では無く、地域振興や耕作放棄地の対策として根本的な解決にはつながりません。面積的な規模拡大が進むにつれ、現在の管理圃場の在り方を見直すところにきており、今後はこの地域をどういった地域にしたいのか、農業にかかわる水利関係や土地、除草管理、地域活動等ですっかりと協議していく必要があると考えています。

## 今後の取り組み

農業を取り巻く情勢が日々変化する中で、現在ほぼ露地作物で構成された作付計画では、安定した収支計画維持を考えると、現在の規模拡大の流れでは課題も多いため、管内直売所さいさいきて屋のカフェ加工用原料として、イチゴの契約

販売を行う施設栽培を新たな方策として取り組んでいく予定です。

ただ、どんな状況でも、全ての基盤となるのは、『人』です。独立自営就農や当社を含む法人就農にかかわらず、人材創出に向けてJA、行政等で様々な取り組みをしています。前述の通り、様々な状況でそれぞれの課題が生れますが、その時のベストを見つける努力を続け、農と地域の振興に尽力していきたいと思えます。



農地貸借についての研修会